
愛しの・・・

はるやん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

愛しの・・・

【コード】

N0271S

【作者名】

はるやん

【あらすじ】

俺の気持ち・・・・・・・・

君と出会ったのはとある日の保健室。

俺は教室には上がらず、そこで時間を潰していた。

昼休みに入った時、君は友達と二人でやって来たんだ。

二人は怪我をしている様子も無く、俺たちと話して時間になると帰っていく。

そんな日がしばらく続いた。

その時、友達に気があった俺は君の事なんて目にもくれてなかったんだ。ごめん……

でも、事態が急変したのは2月の始め。

メアドを交換した俺たちは毎日のようにメールをしたね。

一緒に遊ぶようになり、遂には君の家で夜ご飯を食べるまでになったんだ。

この頃からなんだ。君の事を意識し始めたのは……

回りにからかわれながらも、二人は愛を育んでいった。

3月5日

俺はこの思いを伝えた。

自分の気持ちを伝えるのは初めてだし、無論伝えられたこともない。だから今まで味わったこともないくらいの緊張に襲われた。

君は首を縦に振り、ニコリと笑った。

俺はその顔を直視は出来なかった。

それは恥ずかしくて……でもとても嬉しかったから……

その日の帰り道、俺は柄にもなくスキップしていた。

それから一週間もたたずに、初めて唇を重ねた。
目を瞑っていた君の顔はとても可愛くて、気付いたらやっていた。
初めて重ねた唇は柔らかくて、気持ち良くて・・・
この時、初めてキスをするカップルの気持ちが分かった。
君はとても驚いていて、その顔もまた面白かった。
その日、親の顔は見れなかった・・・

それから少し経ち、君への思いが分からなくなった。
理由は分からない・・・
でも、なぜか君への思いは薄れていった・・・
それでもその気持ちを隠すため、無理に好きって言って
好きって言わせて・・・
好きだったのに、好きなのに・・・
その気持ちは霧のように不透明になっていった。
なぜ・・・

気持ちの整理がつかないまま二人は離れ離れになった。
そこで気付いた君の存在意義。
そしてどれだけ愛していたかを
どれだけ愛しているかを・・・
再び会えたら伝えよう。

この思い。君が好きってことを・・・

(後書き)

少し臭くなったけど、今の俺の気持ちが見えたと感じるからそれで十分。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0271s/>

愛しの・・・

2011年10月8日04時33分発行